



# Advance

令和3年10月27日  
尾道市立高西中学校  
研究推進部

先日（9月30日）の研究授業，本当にお疲れさまでした。大変多忙な中，入念に教材の準備をして研究授業に臨んでくださった澤田先生，栩平先生，下崎先生，また，積極的に意見を出してくださったみなさんのおかげで，さまざまな視点からよりよい授業について考えることができました。今回の研究授業の要点をまとめます。

## 生徒を「主体」とした授業にしていくために

### ① 「ファシリテーター」としての教員へ

「授業を成功させたい」「生徒に正しいことを理解させたい」という気持ちは教師として必要な考え方ですが，その思いが強すぎて，教師が全てのルールを敷き，生徒が試行錯誤をしながら答えにたどり着こうとする「思考」の過程を確保できていないことがあります。

「思考」をさせるために，①課題に対して「予想」を立てさせる，②解決方法（検証）の仕方を考え，まずは生徒達に委ねて取り組ませてみるという視点も大切かもしれません。そして，生徒がつまずいたときのために，解決の糸口となる視点や資料，発問を準備しておきそれをタイミング良く伝える「ファシリテーター」としての役割を意識してみましょう。

### ② 生徒の目線に立って考える

教師には伝えたいことが多くあります。しかし，一度に多くの情報を読み取ったり，考えたりすることは生徒にとっては難しく混乱します。学習課題や活動内容を設計する際には，自分が生徒ならどう感じるか生徒の目線に立って設計をしてみましょう。そうすると自然と学習内容を「焦点化」したり，わかりにくい事象を「視覚化」したり，「スモールステップ化」でねらいに迫ったりするなどの手立てが浮かんでくると思います。

## 校長先生のあいさつより

☆アウトプットを繰り返すことで本物の理解になる。

⇒授業研究実践を行った後，低学力の生徒でも1人で家庭学習ができるようにつなげていきたい。

☆実技教科は特に力量差が目に見える

⇒ 個別の状況に合わせた声掛けの工夫

⇒ 最後までやりきらせて，「頑張ってよかった」という充実感を持たせることが大切

☆特別支援が必要な生徒に対しては，ニーズを把握し，個別に応じた最適な手立てを活動や発問ごとに細分化して考えていく必要がある。

☆探究を生む授業は，生徒の中に「なぜ」をどう生ませるかが重要 ⇒ 発問へのこだわり



1年 数学



2年 美術



3年 英語（特支）

1年 数学 題材名「方程式」 : 澤田教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>釘やネジなどの具体物を使用したことが、生活とのつながりの実感や、学習へ期待感を引き出していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の説明が丁寧な半面、生徒の自由な発想は生まれにくかった。 ⇒一度生徒にゆだね、予想し検証させる。つまりいた際に教師がヒントを与え、原因に気づかせる。</li> </ul>
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで作業することで、学力に課題がある生徒に安心感が生まれ、協力して解決しようとする姿勢が見られた。</li> <li>協働の中で出た発言がほかの生徒の学びになっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使った「考え方」を言葉にして、伝え合う場があれよかった。</li> <li>考えを深めていく際に必要な既習事項について、 ⇒低学力の生徒にはとくに丁寧に確認を行うことが必要。</li> </ul>
学びの深まりを実感するための工夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの際に、特に振り返らせたい視点を示すとよかった。書くのが苦手な生徒に対してはキーワードを与えてもよい。</li> </ul>

2年 美術 題材名「墨で書く楽しさ～墨の表現者になろう～」 : 柊平教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が活動の目標を設定していた。</li> <li>カメラをうまく活用して模範を示していた。</li> <li>授業の流れが明確に提示されていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の専門性を生かした見本で生徒の「こんな風になりたい」という意欲を引き出す。</li> <li>学習課題に入るまでの時間をコンパクトにし、課題に時間をとれるようにする。</li> </ul>
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動だけで終わらず、工夫した点を共有し学びあう機会が設定されていた。</li> <li>考えの共有に ICT (ジャムボード) を積極的に活用していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロムブックで共有した情報を見ながら作業している生徒、邪魔だと思いきろムブックをたたんで作業している生徒がいた。 ⇒共有した情報の活用の仕方を明確に示す。 ⇒生徒の机上にある用具の配置を示す「場の構造化」</li> <li>共有する視点が3つあり、ジャムボードが複雑になってしまった。 ⇒共有の目的を明確にする…視点をしぼる「焦点化」 …ICTの活用の仕方を適切に選択</li> </ul>
学びの深まりを実感するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りシートを、めあてに対しての振り返りと、個別に設定した活動の目標の2つに分ける工夫をしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの振り返りが似たものになっている生徒 ⇒明確な例示を行い、書き方の違いを意識させる。</li> <li>学習課題が2つあり、中途半端に終わっている生徒 ⇒課題を絞って徹底させる。</li> </ul>

3年 (特支) 英語 題材名「Unit 5 A Legacy for Peace」 : 下崎教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>Google form を活用して、意欲的に理解を深めさせられた。</li> <li>動画を活用して、関心をひきつけることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあて、活動の流れなどを可視化する。 ⇒支援が必要な生徒は特に見通しを持つことが重要</li> <li>英語でのあいさつ・質問に返答できない。 ⇒選択肢を用意し、選ばせる手立て</li> </ul>
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスニングの際、ポイントとなる箇所を示し、強調して聞かせる手立てがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を用いた教師との対話が少なかった。 ⇒語彙力に問題がある場合は、Yes. No.で意思表示できる質問から徐々に慣れさせる。</li> </ul>
学びの深まりを実感するための工夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>動画を見る前に発問を提示しておく ⇒動画から学びとろうという意識につながる。</li> <li>字幕を活用して、意味を理解させつつ英語に触れさせる手立てを行う。</li> </ul>

